

2024 年 1 月 12 日

各位

株式会社パン・アキモト
代表取締役 秋元信彦

能登半島地震被災地へ継続的な支援に向けてのご協力をお願い

パン・アキモトでは救缶島プロジェクトをはじめ、今まで多くの支援活動を共に行ってきた『一般財団法人 日本国際飢餓対策機構 (JIFH)』と協力をし、能登半島地震で被災された地域へパンのかんづめ（救缶島 約 5,000 缶）支援を 5 回実施しております。JIFH は既に石川県内にベースキャンプを開設し、各自治体単位ではなかなか支援が届かない地域や被災者への支援を実施しております。

まだまだ全容が見えずに復興まで長期化が予想される中で、弊社としましては継続的な支援を実施する為にも、下記の通り寄付を募らせて頂きたいと思えます。

つきましては「皆様の善意をパンのかんづめに託して送りたい」と考えておりますので、ご支援ご協力をお願い申し上げます。

<ご支援方法>

1 口 3,000 円から受け付けております。下記の方法よりご支援をお願い致します。

① 【銀行振込】

振込先：足利銀行黒磯西出張所（店番：189） 普 2576867 （株）パン・アキモト

② 【弊社直売店へご持参頂く】

石窯パン工房きらむぎ店にて支援金をお受取り致します。

住所：〒329-3147 栃木県那須塩原市東小屋 368

※お手数をお掛け致しますが、ご支援後に下記の「メールアドレス」又は「FAX 番号」へ
氏名・住所・電話番号・口数をお知らせ下さい。

Email：canned-bread@panakimoto.com

Fax：0287-65-3353

<募集期間>

2024 年 4 月 30 日（火）

<支援状況の報告>

パン・アキモト公式 Facebook、X、ホームページ、救缶島通信（メール）等で随時報告を致します。

<お問い合わせ先>

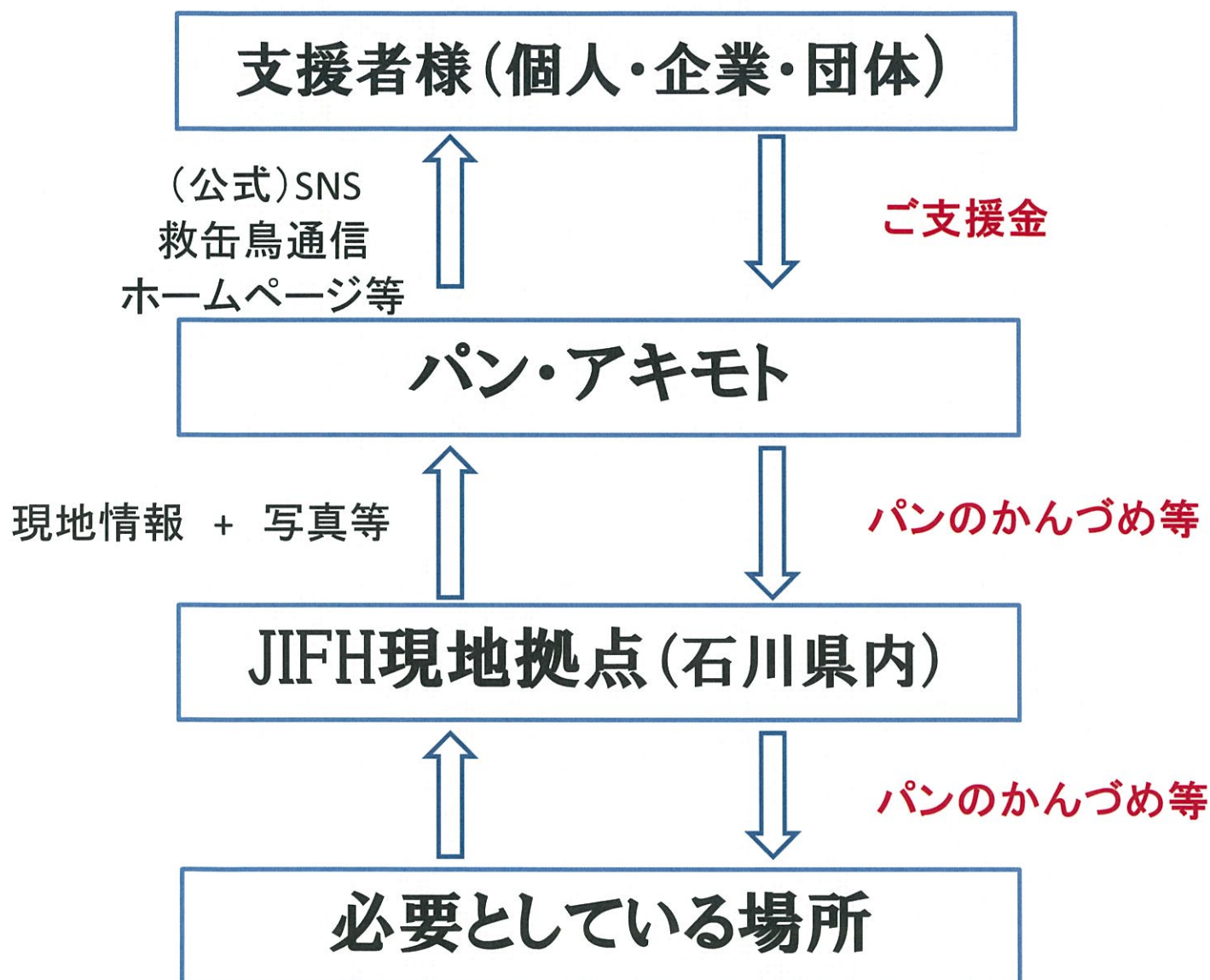
株式会社パン・アキモト 担当：船山

〒329-3147 栃木県那須塩原市東小屋 295-4

TEL：0287-65-3351 FAX：0287-65-3353

以上

＜能登半島地震 被災地支援スキーム＞



支援の見える化

2024年1月4日(木曜日)の新聞に 能登半島地震被災地への支援について掲載されました!

2024年1月4日 下野新聞

被災地支援へ 募金箱を設置

那須塩原市

能登半島地震を受け、那須塩原市は3日、市役所など計4カ所に災害義援金を受け付ける募金箱を4日から設置すると発表した。
設置場所は市役所本庁舎の他、西那須野、塩原両支所、箒根出張所。受付時間は平日午前8時半～午後5時15分(窓口延長サービス実施日は午後7時まで)。31日までの予定で、義援金は日本赤十字社を通じて被災地に届けられる。
姉妹都市の富山県滑川市からの要請を受け、那須塩原市が発送した飲料水約2千本、パンの缶詰約2千缶は3日午前、滑川市役所に届いたという。

2024年1月4日 朝日新聞

地震で支援物資 那須塩原市送る

富山の姉妹都市へ

石川県能登地方を震源とする地震を受け、那須塩原

市は3日、最大震度5弱を観測した富山県滑川市に向け、パンなどの支援物資を送った。義援金も受け付ける。

両市は姉妹都市の関係に

でつくる後援会の長として出初め式を通じ「『かっこいい』と消防署員、消防団員をめざす子が出てきてほしい」と願う。

(小野智美)

富山・滑川市に 支援物資届ける

能登地震 那須塩原市

那須塩原市は3日、能登半島地震で被害を受けた姉妹都市・富山県滑川市から要請を受け、支援物資を送り届けたと発表した。届けたのは市の災害備蓄品の飲料水約2千本(1本500ミリットル)、市内の「パン・アキモト」が無料提供した缶詰パン約2千食。

今月4～31日は市役所本庁と西那須野、塩原両支所と箒根出張所に災害義援金

の募金箱を設置し、全額を日本赤十字社に寄付する。

(小野智美)

2024年1月4日 読売新聞

ある。那須塩原市によると、滑川市から要請があり、非常用のパンの缶詰約2000食、ペットボトルの飲料水約2000本を送った。
パンは、那須塩原市のパン製造販売会社「パン・アキモト」が提供した。県トラック協会塩那支部に加盟する運送業者が輸送にあたり、3日早朝に市内を出発。午前10時半頃、滑川市に到着し、物資を引き渡したという。

義援金は、那須塩原市役所、各支所、出張所で、4日から31日まで受け付ける予定。問い合わせは、同市危機管理室(0287・62・7150)。

2024年1月5日(金曜日)の**新聞**に
能登半島地震被災地への支援について掲載されました!

2024年1月5日 下野新聞

能登半島地震を受け、県内経済界でも、被災地支援の動きが広がっている。防災備蓄用などの缶詰パンを製造販売するパン・アキモト(那須塩原市東小屋、秋元信彦社長)は4日、缶詰パンを1日5千個製造する「フル生産」に乗り出した。

東日本大震災では、発生直後に被災地支援や自家用などとして通常の2倍の注文があったという。秋元社長は「今回はどうなるかま



非常用缶詰パンフル生産

県内企業にも支援の輪

だ分からないが、いつでも要望に応じられるよう対応したい」と説明する。

同社によると、地震を受け、既に都内の信用金庫から金沢市の信金に送りたい

という依頼を受けた。また、普段から連携している人道支援の非政府組織(NGO)が同日、被災地に入ったといい、具体的な支援内容が決まり次第、同NGOを通じて関西営業所から缶詰を送る予定という。



非常食用の缶詰パン「救缶鳥」の発送準備を行う従業員
＝4日午後、那須塩原市